

つながる すみだ人

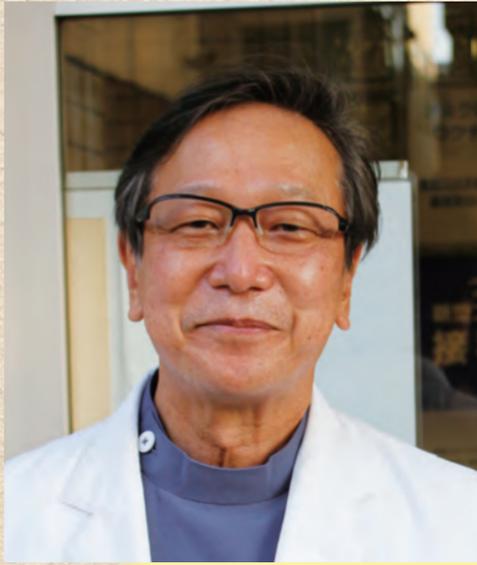
私の好きな すみだ

今月の1枚
「桜の木まで届くかな」
【撮影】橋本亜季さん

本コーナーへの写真を随時募集しています。詳細は区ホームページをご覧ください。



【問合せ】広報広聴担当 ☎5608-6223



平野仁志さん(八広在住)

すみだを愛し、すみだで活躍する人をリレー形式で紹介する「つながる すみだ人」。お話を伺った方に次の方を紹介していただき、すみだを愛する人をつないでいきます。第52回は、地域のかかりつけ医として「正和会平野診療所」(八広4-48-5)を営んでいる平野仁志さんです。

Q. すみだでどのような活動をしていますか？

診療所を営みながら、特別養護老人ホームの配置医、企業の産業医、小学校の校医等を請け負っています。また、墨田区医師会の監事や、休日応急診療所の運営委員長、墨田区公害健康被害認定委員など、地域に根ざした医療活動を行っています。

診療所では、1日平均で約50人～60人の患者さんの診察をしています。30年前は、八広周辺に工場が多くあったため、たくさんの若い工員の方が患者さんとして受診にみえましたが、現在では、八

広も工場が少なくなり、高齢の患者さんが多くを占めています。

そんな患者さんたちのために、どのような医療を提供できるのか日々考えながら、患者さんと向き合う毎日を送っています。

私の理想は、地域のかかりつけ医として、子どもから大人まで、一つの家族をまとめて診ていくことです。それを続けることで、少しでも地域医療の力になれば嬉しいですね。

Q. 現在の活動を始めたきっかけは何ですか？

私の父が昭和33年に平野外科医院を開業したのが始まりで、平成3年に私がこの医院を引き継ぎ、内科の平野診療所として運営しています。大学入学前は別の道に進もうかと悩んだ時期もありましたが、医学部に入学してからは父の医院を継ぐつもりで学業に励みました。一度は大病院にも勤めていましたが、父が病気になったのをきっかけに実家に戻りました。

昔から診療所と自宅が同じ建物内にあるため、

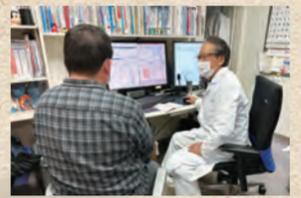
患者さんとの距離感も近いように思います。そのこともあってか、何十年も診ている患者さんもたくさんいます。

現在、この診療所は私を含め、総勢11人体制で医療に当たっています。今後、私が診ている患者さんをどのように次の世代に継承していくのかなどの課題はありますが、地域のかかりつけ医として、これからも地域医療を支えていきたいと考えています。



◀平野診療所を支えるスタッフの皆さんと。スタッフ相互のコミュニケーションを大切にしています。

▶平野診療所での診察の様子。忙しい時でも、患者さんの話をよく聴いてから、診察するよう心掛けています。



Q. 平野さんは、すみだのどんなところが好きですか？

すみだの都会過ぎず、田舎過ぎないところが好きです。下町気質なところがあり、人と人とのコミュニケーションも円滑に取れ、とても住みやすいまちだと思います。交通面においても、東京メトロ半蔵門線が乗り入れたことにより、都心部へ

のアクセスが格段に良くなりました。また、東京スカイツリー®が開業したことにより知名度も上がり、人が集まるようになったことで新しい商業施設やスーパーマーケットができるなど、昔から比べると、とても便利なまちになったと思います。

次回登場してくださるのは・・・

東墨田で油脂製造の会社(平和飼糧株式会社)を営んでいる平野清子さんです。

【問合せ】広報広聴担当 ☎5608-6223



夢

地域と大学をつなぐ"キャンパスコモン"がオープン!

墨田区長

山本 亨

3月12日、千葉大学墨田サテライトキャンパスとIU 情報経営イノベーション専門職大学の間に位置する、地域と大学の交流広場"キャンパスコモン"の完成を記念したオープニングイベントを開催しました。

この文花地区では、平成20年から長く大学誘致を進めてきましたが、令和2・3年度に両大学が開学・開設され、長年の悲願であった大学誘致がようやく実を結びました。

"キャンパスコモン"の整備に当たっては、地域の皆さんが大学を身近に感じ、また、憩いの場となるよう、あずま百樹園と一体的に公園として整備することとし、"大学のあるまち"のシンボルとするべく、地域や大学の皆さん

と多くの意見交換を重ねながら、検討・調整を進めてきました。

また、その設計は、公民学連携組織"アーバンデザインセンターすみだ(UDCすみだ)"と連携して、大学が有する建築・デザイン・ランドスケープ等の知見を活用し、設計コンセプトや、樹木の選定・配置等、随所に大学の知見が応用された内容となっています。一見すると、大学と公園の境が分からないほどの一体感があり、大学を身近に感じられます。

区民の皆さんには、健康・デジタル等の分野で大学の最先端の研究を体験できる場として、この広場を積極的に利用してもらえればと思います。

今年度からは、いよいよ隣接する"あずま百樹園"の再整備がスタートします。学生が考えた公園トイレを実際に配置するなど、"大学のあるまち"ならではの魅力ある公園整備を行っていきますので、引き続き区政に対するご理解とご協力をお願いします。



キャンパスコモンオープニングセレモニーにて

